

令和２年度 第１回 富里市介護保険運営協議会

招集年月日	令和２年７月３０日（木）	
招集の場所	市役所３階第３会議室	
開会・閉会 の 時 間	開会 令和２年７月３０日１４時００分	
	閉会 令和２年７月３０日 時 分	
◎会 長 ○副会長	氏 名	出欠等の別
	池 原 富貴夫	○
	佐々木 佳 代	○
	高 崎 啓 子	○
	丹 さく子	○
	石 井 みちよ	○
	◎宮 川 朱 実	○
	我 妻 道 生	○
	田 村 由 紀	○
	中 川 孝 道	○
	土 屋 和 秀	○
	○土 屋 亮 太	○
	鈴 木 光 一	○
事務局	部 長 森 秀樹	
	課 長 中澤 一志	
	副主幹 押尾 忠久	
	副主幹 押切 功	
	主査 戸村 由美子	
	主査補 秋葉 真澄	
議 題	別紙のとおり	
会議の経過	別紙のとおり	

令和２年度第１回富里市介護保険運営協議会 会議次第

日 時 令和２年７月３０日（木）
午後２時から
場 所 本庁舎３階第３会議室

１ 開 会

２ 会長挨拶

４ 議 題

- （１）富里市高齢者保健福祉計画・第７期介護保険事業計画進捗について【資料１】
- （２）令和２年度地域密着型サービス整備事業者募集結果について【資料２】
- （３）介護予防・日常生活圏域ニーズ調査等の結果及び本市を取り巻く現状について【資料３】

５ 報告事項

- （１）介護保険事業の現状報告について【資料４】
- （２）地域密着型サービス事業所の指定状況について【資料５】
- （３）富里市地域包括支援センター等運営協議会からの報告【資料６・７】
- （４）富里市指定居宅介護事業所等指導・監査連絡協議会からの報告【資料８】
- （５）富里市高齢者保健福祉計画・第８期介護保険事業計画策定スケジュールについて【資料９】

６ その他

７ 閉 会

令和 2 年度 第 1 回富里市介護保険運営協議会 会議録

1. 開 会
 2. 会長挨拶
 3. 高齢者福祉課異動職員の紹介
 4. 議 題
 5. 報告事項
 6. そ の 他
 7. 閉 会
-

1. 開会

(押切) それでは、皆様おそろいですので、定刻前ではございますが、進行を始めたいと思いますが、議題の段階で傍聴者等がいらっしゃった場合については、お諮りはしていきたいと思うので、そこだけ御留意願えればと思います。

それでは「令和 2 年度 第 1 回富里市介護保険運営協議会」を開催させていただきます。

本日の進行を務めさせていただきます、高齢者福祉課、押切と申します。よろしくお願いいたします。

本日、委員の皆様全員で 12 名、出席していただいております。

市の介護保険条例の第 16 条の規定により、過半数の委員の出席を満たしておりますので、会議が成立したことを報告させていただきます。

2. 会長挨拶

(押切) 続いて「2. 会長挨拶」でございます。

宮川会長、御挨拶をよろしくお願いいたします。

(宮川会長) 皆さん、こんにちは。

コロナウイルスの感染ということで、本当に皆さん御苦労なさっていて、会議も開けなかったということで、やっと会議が開けるようになったと思えば、まだ第 2 波が来るのでしょうか。

毎日、コロナのテレビで、見ているだけで嫌になってきてしまって、どうなるのだろうこの国はといらいらしたりとか、その中で、スポーツのほうもオリンピックが延期になったりということで、本当にどうなるのだろう、オリンピックをやっているのかどうか。

今日の朝、大リーグを見ていたのですけれども、日中、相撲を見たりして、スポーツはみんなの気持ちを慰めてくれるのかという面もあったりということで、日本のこれからはどうなるのでしょうか。

市役所の皆さんもビニールを貼ったり、いろんなことをやられて、たまに市役所に来ても、皆さん、静かになさっていて、誰一人お話しされる方はいないということで、皆さんはすごくストレスがたまっているのではないかと考えています。

私も東京に住んでいたことがあって、団地住まいだったらどうなるのだろうと思いながら、外に出ることもできないし、買い物も考えてしまうし、消毒みたいな、ストレスもたまりっ放しで、富里に住んでいて、私はよかったと思って、自然があるし、庭でお花の手入れもできたりしてということで、少しは癒されると思っています。

あまりしゃべるとよくないと思うのですけれども、本当に皆さんは御苦労

されていると思いますので、健康に気をつけて、もうなっただらしょうがない、治療を受けてということで、皆さん、ならないようには気をつけていらっしゃるのでしょうかけれども、これからも健康に気をつけていただいて、過ごしていただければと思います。今日はよろしくお願いいたします。

(押切) 宮川会長、ありがとうございました。

3. 高齢者福祉課異動職員の紹介

(押切) 続きまして「3. 高齢者福祉課異動職員の紹介」ということで、中澤課長、よろしくお願いいたします。

(高齢者福祉課長) 高齢者福祉課長の中澤です。

昨年度に引き続きまして、よろしくお願いいたします。

本日は、御出席ありがとうございます。

それでは、4月に人事異動がございましたので、私から紹介させていただきます。

まず部長が変わりました。森健康福祉部長です。

(健康福祉部長) 森でございます。よろしくお願いいたします。

(高齢者福祉課長) 続いて、高齢者福祉課になります。

包括支援班班長、押尾でございます。

(押尾) 押尾でございます。よろしくお願いいたします。

(高齢者福祉課長) 同じく包括支援班の戸村でございます。

(戸村) 戸村です。よろしくお願いいたします。

(高齢者福祉課長) 昨年度に引き続きまして、介護保険班、押切でございます。

(押切) よろしくお願いします。

(高齢者福祉課長) 同じく介護保険班、秋葉でございます。

(秋葉) 秋葉でございます。よろしくお願いいたします。

(高齢者福祉課長) 以上のメンバーで、本年度、担当してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(押切) 中澤課長、ありがとうございました。

適宜、傍聴の方がいらっしゃれば、お諮りはしていきたいと思います。

4. 議題

(1) 富里市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画進捗について【資料1】

(押切) それでは「4. 議題」に入らせていただきます。

介護保険条例第16条の規定に基づき、本会議の議長は、宮川会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(宮川会長) それでは、議事に移りたいと思います。

本日の議題は「(1) 富里市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画進捗について」と「(2) 令和元年度地域密着型サービス整備事業者募集結果について」「(3) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査等の結果及び本市を取り巻く状況について」の三つでございます。

それでは、議題「(1) 富里市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画進捗について」、事務局よりお願いいたします。

秋葉さん、お願いします。

(秋葉) お手元の資料、1ページをお願いいたします。

着座にて失礼いたします。

富里市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画実績報告について、報告

させていただきます。

「①富里市介護保険被保険者の状況」ということで、高齢化率でございます。

令和元年度につきましては、27.62%でございます、前年度と比べて0.53ポイント上昇しております。

75歳以上の方なのですけれども、11.17%ということで、0.54ポイント上昇してございます。

要介護認定関係ということで、審査会の開催回数と審査件数についてでございます。

令和元年度につきましては、39回の開催でございます、審査件数は1,370件、1回当たり約35人で行いました。

認定状況につきましてはでございます。64歳以下の2号の被保険者の方も含んでおります。特に上昇が見られているところとしましては、要支援2から要介護3までのところでございます。

要支援2としまして183人ということで、プラス17名。

要介護1のところ、299名ということで、プラス22名。

要介護2のところ、298名ということで、プラス24名。

要介護3のところ、255名ということで、プラス31名の上昇でございます。

総数としましては、1,543名で、プラス70人の上昇が見られました。

認定率の状況としましては、10.60%ということでございまして、0.2ポイントの増加となっております。

2ページ目をお願いいたします。「②富里市の認定者の状況」について、説明させていただきます。

認定者数等の推移としまして、3年間の推移でございます。70歳から89歳の範囲の方の認定者数が伸びている状況が見えてきました。

70歳から74歳のところで、プラス155人ということで、例年と比べまして、プラス23名。

75歳から79歳のところで、247名で、プラス28名。

80歳から84歳のところが308名ということで、プラス7名。

85歳から89歳のところで、339名ということで、プラス11名。

前年比としましては、70名の増加がございました。

真ん中の表ですが、1ページの内容と同内容ですので、割愛させていただきます。

分析、課題、対応策についてでございます。

分析としましては、総人口は減少傾向であるのに対し、高齢者人口は増加傾向にあります。要介護認定数は増加傾向にある一方、認定率については横ばいとなっています。県・国・近隣市・類似市と比較しても低い水準でございます。

課題としましては、認定率の低さは、後期高齢者数の少なさが大きな要因と考えられるが、今後は認定率上昇が避けられない状況です。低い認定率維持には、介護予防取組の充実が必須です。また、飲酒量や喫煙率が国・県より高めであり、要注意です。

対応策について、認定率の低さを維持するために、介護予防各種事業について、引き続き拡充、推進が必要であります。また、自分の健康に関心を持ってもらえるような啓発活動をしていただくとともに、健康などに関心がない層にもアプローチをしていきたいと記載しています。

3ページをお願いいたします。「③介護給付費執行状況」について、計画値、実績値、計画値執行率を載せてございます。

抜粋で上から5個目の居宅療養管理指導ということで、計画では852だったのですけれども、実績では2,002と過分に上がっております。

真ん中の居宅介護支援というところで、計画では7,116が9,517ということで、プラス2,401の増加が見られました。

下から3段目の介護老人保健施設ということで、計画では2,748でございましたが、実績では1,935ということで、マイナス813人でございました。

居宅介護支援のほうで2,000人増加ということなのですが、新規計画の作成が多かったものと思われます。

下から3段目、老人保健施設の減少なのですが、人材不足による影響ということだと思われます。

分析、課題、対応策についてです。

分析、居宅管理療養指導が計画比約230%になっております。これは医療・介護の連携が進み、医療側から居宅管理療養指導の提案が増えているからと思われます。介護医療院も計画比と比べ、実績の割合は高くなっております。理由としては、近隣の医療機関が介護医療院を開設したことが要因と思われます。計画比が低い項目は、介護資源が少ないことと思われます。

課題としては、訪問看護・通所介護の利用回数が多い。ニーズも多いサービスのため、適正な利用につなげることが大切だと思われます。計画と実績の均衡が取れていない項目があります。

対応策について、給付適正化事業を推進し、次期計画策定の際は、サービス量見込を適正に行うとしました。

4ページなのですが、横開きのA3の大きいものになります。「第7期介護保険事業計画『取組と目標』に対する自己評価シート」ということでございます。2～3点だけ説明をさせていただきます。

3番の地域包括支援センターの機能強化ということです。

地域包括支援センターの相談実績を増やし、介護の支援を図るとともに、地域包括ケアシステムの構築をさらに推進するというところでございまして、目標としては3,700件でございましたが、相談としては5,470件と大幅に増やした形になりまして、◎がついてございます。

実施内容としては、基幹型包括1か所、圏域ごとの包括3か所の計4か所で介護などの相談を受け、介護保険サービスの円滑な利用や権利擁護などを図ったということでございました。

課題と対応策ということで、地域ケア会議を開催したままにならないよう、発見した地域課題を地域資源の開発や政策へ反映していく必要がある。そのために共有された地域課題について分析を行い、地域の課題を明確にするということでございます。

5番です。学習機会の提供ということです。

目標としまして、様々な機会を利用し、介護予防の学習を図り、生きがい創出にもつなげるということで、介護予防出前講座、創年セミナー、スポーツ大会をしまして、出前講座につきましては6回、創年セミナーについては27名の参加、スポーツ大会については、台風の影響もあったので、中止になっておりまして、自己評価としては×をつけたいと思います。

新規受講者や参加者が増えないことから、周知方法、内容の見直しが必要であると考えということで、要検討でございます。

5ページをお願いいたします。7番、介護予防の推進ということです。

目標としましては、一般介護予防事業の実施により、介護予防を推進する。筋

力アップトレーニング施設開放事業延べ参加者数の増加ということで、目標が2,800とございまして、実績としては2,495ということで、自己評価としては△がついてございます。

課題と対応策について、順調に地域での介護予防が進んでいるが、課題などは筋力アップトレーニング施設開放事業は登録者が増えてきているため、新たな受け皿を用意するか、回数を増やすなどの検討が必要である。集いの場やとみさと健康ちょきん体操が順調に増えているが、地域ごとで温度差があります。また、活動を行っていない地域へのさらなる啓発が必要であると課題が見えてきました。

その他、項目で自己評価が△がついてしまっているところが何か所かございしますので、改善に動いていかなければならないと考えております。

以上でございます。

(宮川会長) ありがとうございます。

それでは「(1) 富里市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画進捗について」、御質問がある方、お願いします。よろしいですか。大丈夫でしょうか。

ないようでしたら、質疑は終わりにします。

(2) 令和2年度地域密着型サービス整備事業者募集結果について【資料2】

(宮川会長) 次に「(2) 令和2年度地域密着型サービス整備事業者募集結果について」を事務局より御説明をお願いします。

押切さん、お願いします。

(押切) 着座にて説明させていただきます。

資料の6ページをお開きください。資料2、第7期介護保険事業計画における地域密着型施設公募、こちらは再公募になります。

1番、公募を行うサービスの種類等ということで、小規模多機能型居宅介護。必要整備量として1事業所。公募結果としては1件ございました。

2番、定期巡回随時対応型訪問介護看護。必要整備量、1事業所。こちらについては、応募結果として0件でございました。

資料が飛びまして、8ページをお開きください。4番目の整備予定事業者決定までの日程ということで、令和2年3月18日におきまして、募集要綱、募集の概要等を含めたホームページの公開を行いました。同日、窓口にて募集要綱の配布。

続きまして、それに受けた形での質問受付期間です。3月18日から3月27日、こちらの質問件数は0件でございました。

それに対する質問の回答期限としては、3月30日を設定しております。

応募受付期間は、本年4月1日から4月30日、1カ月を設けておりました。先ほど申し上げたとおり、小規模多機能型居宅介護は、4月30日付で応募が1件ございました。

それを受けまして、業者の選定会が5月25日月曜日、そこで選定の業者が決まりまして、選定結果通知につきましては、5月28日木曜日に通知をしております。

9ページを御覧ください。こちらが地域密着型居宅介護の公募をした結果、決定事業者の概要ということになります。

申込者、株式会社アソシア。日吉倉239番地の12。

代表者は小林孝。同じ日吉倉の239番地の12ということになります。

こちらの会社におかれましては、設立年月日が令和2年4月17日です。

小規模多機能を実施する事業所名としましては、エミナスの風。

管理者は代表者と同じで小林孝です。

実施事業としましては、小規模多機能型居宅介護ということになります。

こちらの小林代表におかれましては、近隣でイルカの家デイサービスを行っていますが、その管理者の方が新しい会社を立ち上げて、エミナスの風ということで、来年の4月1日に開設予定ということで応募がございました。

営業時間等については、予定としましては、通いのサービス、7時から20時、宿泊のサービスが20時から朝の7時までです。

登録定員については29名、通いのサービスの利用定員が18名、宿泊サービスの利用定員が9名ということになります。

面積については、前回あったサルビアさんの小規模多機能は平屋でしたが、今回の建つ予定のエミナスの風については、2階建ての構造になっておりまして、合計で404.1平米ということになっております。

こちらについては、夏以降の建設が始まり、年度内完成を予定ということになっています。

説明は以上です。

(宮川会長) ありがとうございます。

それでは「(2) 令和2年度地域密着型サービス整備事業者募集結果について」の御説明がありましたけれども、御異議、御質問等がございましたら、お願いいたします。土屋さん、お願いします。

(土屋(和)委員) 土屋です。

公募をされた中で、定期巡回の応募がなかったということなのだと思いますけれども、引き続き募集はされるのでしょうか。

(宮川会長) 押切さん、お願いします。

(押切) 来年度から第8期の介護保険事業計画をまさに今、策定している段階でございます。8月、9月にかけて、向こう3年間のサービス給付量、事業量の試算をする段階の作業が入ってきます。どの種類の施設を構築していくか等々は、未定のところがございますので、利用者のニーズ、あとは事業者さんからのいろいろな御相談、市の不足している社会資源等々を含め、総合的に検討をしていきたいと思っております。

以上です。

(宮川会長) ありがとうございます。

よろしいですか。

ほかに御質問はございましたら、お願いします。よろしいですか。

それでは、これで質疑を終わりにします。

(3) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査等の結果及び本市を取り巻く現状について

【資料3】

(宮川会長) 次に「(3) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査等の結果及び本市を取り巻く現状について」、事務局よりお願いします。

(堀内(株)ぎょうせい) 株式会社ぎょうせいの堀内と申します。

私から、こちらの緑色の冊子を説明させていただきたいと思っております。

着座にて失礼いたします。

富里市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画策定に係る調査報告書になります。

全てを見るのは、時間の都合上できないので、はしりながら要点を説明させていただきたいと思っております。

1 ページを御覧ください。この冊子には、2 種類の調査結果がまとめられております。

「2 調査の種類・調査対象者・調査方法等」のところを御覧ください。

一つ目が介護予防・日常生活圏域ニーズ調査という調査結果の内容となっております。

これは富里市の 65 歳以上の高齢者、要介護認定を受けていない高齢者の方の健康状態等を調査する内容になってございます。この名称から分かるように、日常生活圏域別に地域課題があるのかどうかといったことも、一つの目的としてございます。

二つ目の調査は、在宅介護実態調査です。

こちらは市内在住の要介護認定を受けて、自宅で生活されている方に調査を行っています。こちらは認定調査員の方による聞き取り調査という方針で実施しております。

在宅介護実態調査の目的というのは、介護離職がずっと社会的な課題とされていたので、どうやったら在宅の介護を続けていくことができるのか、そういったような観点からの調査となっております。

一つ目の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から見ていきたいのですが、項目が非常に多岐にわたりますので、後ろにまとめたページがありますので、88 ページから説明させていただきたいと思います。

ここは高齢者のリスク判定分析という形で、1～6 までの項目をまとめてありまして、ここでいろんな項目を少し組み合わせて、高齢者の皆さんの状態がどんな感じなのかということを、全体的に表現できているということで、ここを説明させていただきたいと思います。

「1 運動器機能低下リスク」ということです。

こちらの分析におきましては、真ん中辺りに項目という形で、3 一問 1 から 3 一問 5 まで、そこに表示しておりますけれども、それらの項目を足し合わせて、そういった設問項目に対して、できないとか、不安であるというような方の割合を分析してございます。

下にグラフがございまして、判定概要ということで、この全体のところを見ていただきたいのですけれども、運動器機能低下リスクがあるという方が 13.2%です。全体のうち 13.2%の方が、そういった運動器の機能低下がありますということになります。逆に言いますと、86.8%の方は、問題なく生活されていらっしゃるということになります。

89 ページでございます。「2 閉じこもりリスク」です。

設問は、週に 1 回以上は外出していますかであれば、あまり外出していないという方が何パーセントいるのかということを見ます。

下のグラフですが、全体でいうと 17.7%になります。こちらでも 8 割以上の方は、週に 2～3 回以上、外出されている形になります。

90 ページ「3 転倒リスク」です。

こちらは過去1年間に転んだ経験がありますかという形で、一度以上ある方が何パーセントかということです。

グラフを見ますと、全体で31.8%です。先ほどまでの項目などに比べると、転び方もいろいろあるとは思うのですが、自己申告にはなりますが、こんな経験があるという方は、3割をちょっと超えるぐらいになっております。

91 ページです。「4 低栄養リスク」です。

ここでは身長、体重から算出したBMIで18.5以下の場合を低栄養傾向という形で定義して、何パーセントの方がいらっしゃるかということを見ております。

それで見ますと、全体で8.3%の方が低栄養リスク該当者という形になります。

92 ページです。こちらはさきの設問の低栄養状態に、さらにこの半年間で2～3キロ以上の体重減少があったかどうかという形で聞いています。それを組み合わせています。

よりリスクの高い人は、全体でいうと1.3%という形になって、大多数の方は低栄養状態ということにはならない、健康的な状態を保っているということになります。

93 ページ「5 口腔機能低下リスク」のそしゃく機能の低下です。

こちらは半年前に比べて、硬いものは食べにくくなりましたかという該当者です。

これが全体で34.8%という形です。ほかの項目と比べて、ここはやや地域差が出ておりまして、南部地域でやや高く、42.7%という形になってございます。

94 ページです。こちら先ほどと同じ口腔機能の低下ではあるのですが、先ほどの項目に加えて、お茶や汁物等でむせることがあるということを加えて、さらに分析するという形になります。

これは全体で15.9%該当するという形になっています。そういう形で、これを組み合わせてみると、84.1%の方は問題なく過ごされています。

95 ページ「6 認知リスク」でございます。

こちらは物忘れが多いと感じますかという設問でございます。ですので、これだから認知機能が低下していると、必ずしも言えない部分はあるのですが、一応一つの目安ということで、この設問が設けられているわけです。

全体で44.1%の方が該当者という形になります。

96 ページは「7 うつリスク」です。

これも自己評価にはなりますけれども、この1カ月間で憂鬱な気持ちになったことがありますかとか、楽しめない感じがありますかとか、そういう設問で聞いた結果でございます。

これで該当者が全体の41.1%になります。先ほどまでの体の健康状態から比べると、少し精神的な部分での課題感みたいなものが若干あると感じています。

97 ページ「8 手段的自立度（IADL）の低下リスク」です。

ここはその下に示している 5－問 2 から 5－問 6 までの設問を組み合わせせておりまして、こちらは例えばバスや電車を使って、1 人で外出できるという方の場合に、1 点プラスしていく形なので、日常生活のいろんなことができるという方が高得点の形になります。

下のグラフで見ますと、点数が高いという方が 84.1%で、こちらのほうが日常生活を問題なく過ごされているという方です。

右の 8.8%と 7.0%を足した 15.8%は、手段的自立度が低下傾向にある、そういうリスクのある方ということになります。

以上が日常生活圏域ニーズ調査の概要にさせていただければと思います。

続きまして、次のページから在宅介護実態調査の調査結果となります。

こちらでも飛び飛びで説明させていただきたいのですけれども、104 ページを御覧ください。先ほど申し上げましたように、在宅介護実態調査は、介護をされている方がどんなふうに感じているかということが、一つ目的にはなっておりますので、その辺のことを 104 ページで見てみます。これは介護を主な理由として、過去 1 年間に仕事をやめた方がいるかという設問になっています。

これで見ますと、介護のために仕事を辞めた家族、親族はいないが 81.6%ということで、大多数の方は何とか介護を継続できているという結果になっていると考えることができます。

107 ページを御覧ください。現時点で施設等への入居の検討状況についてということです。

現時点で施設等へ入所・入居は検討していないが 76.1%で、こちらでも大多数の方は何とかまだ続けていけそうだとことが見てとれると解釈できると思います。

115 ページです。主な介護者の方の勤務形態です。

フルタイムで働いている方が 24.6%、パートタイムで働いている方が 16.4%、働いていない方が 35.1%という分布になっております。働いている方ができるだけ辞めないようにという形で進めていくために、今後、この割合を経年で見ていく必要があると思います。

118 ページを御覧ください。介護者の方が今後も働きながら介護を続けていける見込みがあるかどうかという設問です。

問題なく続けていけるが 24.7%、問題はあがあるが、何とか続けていけるが 50.7%ということで、一応この二つを足し合わせると、4 分の 3 程度の方は、何とか続けていけるという回答になることにはなります。もちろん続けていくのは難しいという方が一定割合の割合で存在しますので、こういった方に対する様々な支援等は必要だと思うのですけれども、ひとまず大多数の方は継続しているという形にはなっております。

最後に 119 ページです。介護者の方が不安に感じている介護の内容についてということです。

一番不安に思っていることは、認知症状への対応が 21.8%、外出時の付添い、送迎が 20.4%、夜間の排せつが 18.9%という形になっております。こういったことに対する不安がなくなれば、さらに在宅での介護をより安心して行っていくことができると思っています。

大分省略はさせていただきましたけれども、以上で私からの説明とさせていただきます。よろしくお願いします。

(押切) 引き続き、取り巻く状況を説明させていただきます。

ホチキス止めの資料の 10 ページを御覧ください。富里市の高齢者介護保険を取り巻く状況ということになります。

11 ページから説明させていただきたいと思います。現在、高齢化が進行しており、総人口の減少傾向に対し、高齢者人口は増加傾向にあります。今後もこの傾向は継続する見込みとなっております。

中段以降から下、国・県と比較した高齢化率の推移と推計ということになります。平成 17 年から見込みの令和 12 年まで、富里市、千葉県、全国ということで記載がございます。

平成 17 年においては、富里市は 13.8%、県が 17.5%、国、全国で 20.1%ということで、比べると、富里市の高齢化率はまだまだ低い市でありました。

平成 27 年で富里市が 24.5%、千葉県 25.5%、全国 26.3%ということで、ほぼ肉薄してきたということです。

今年、令和 2 年 3 月 31 日時点で、先ほど秋葉からもございましたが、直近で富里市が 27.6%の推移がございます。

今後、令和 7 年、西暦 2025 年、団塊の世代がピークを迎える年と言われていますが、想定では、富里市は 31.8%、令和 12 年におかれましては、高齢化率 33%を予想して推計している形になります。

12 ページをお開きください。12 ページにつきましては、近隣市と比較した高齢化率の推移ということになります。

富里市、成田市、八街市、山武市、合計で 4 市が列記されています。

令和 2 年の予想としましては、富里市 29.5%、成田市 23.6%、八街市 30.5%、山武市 35.8%ということで、この中では 2 番目の低さということになります。ただ、どこの市も令和 7 年、令和 12 年ということで、上昇傾向にあるという形で、近隣との比較ということになります。

13 ページをお願いします。認定者数と認定率の推移です。

先ほども御説明がありましたが、認定率は、65 歳以上に占める認定を受けている率ということになりまして、富里市においては、5 年前、平成 27 年においては、認定率 10%、直近の令和 2 年 3 月 31 日現在でございますが、10.6%ということになります。微増で少しずつ横ばいしながら、ちょっと上がっているということで、10.6%になります。

このページの下、全国、千葉県、近隣市、類似市を比較した令和 2 年 3 月 31 日時点での認定率の比較ということになります。

全国が 18.5%、千葉県が平均で 16.3%、富里市が 10.6%で、これを調べてみましたら、千葉県内で富里市が一番低い認定率となっております。

全国においても、4 番目に富里市の認定率が低いということが見受けられまして、元気な高齢者、若い高齢者がまだ多い状況に見受けられます。ただ、今後は 5 年後、10 年後、前期高齢者が後期高齢者に推移していく中で、認定率も上昇していくことが予想されます。

19 ページをお開きください。介護保険料になります。

富里市の介護保険料基準額、千葉県、全国、これは月額ベースの介護保険料の金額の記載になっております。

富里市においては、平成 24 年、平成 25 年、平成 26 年度の第 5 期、こちらが月額 4,200 円。

平成 27 年度、平成 28 年度、平成 29 年度が第 6 期で、こちらが 4,400 円。

平成 30 年度から本年の令和 2 年度までの第 7 期は、富里市が月額 4,900 円。千葉県については、第 7 期の平均が 5,265 円。全国平均は、第 7 期の平成 30 年度以降ですが、5,869 円ということで、保険料においても、全国、県と比較すると、低い水準になります。

このページの下段、近隣市、類似市との第 7 期保険料の比較ということになりまして、成田市、八街市、山武市、富津市、匝瑳市、大網白里市が列記されています。

第 7 期の富里市においては、千葉県で 11 番目に低い保険料の推移となっております。月額保険料ベースということになります。

第 8 期に向けては、先ほども申しましたが、これから必要なサービス量、必要な社会資源、高齢化率、高齢者人口、総合的に勘案して、今年度は提示しながら、各委員の皆様にお諮りをしていく予定になりますので、よろしくお願いします。

21 ページ、第 1 号被保険者一人当たり給付実績、近隣市との比較になります。こちらは平成 30 年度の給付実績により算出した金額ということになります。

幾つか抜粋をして申し上げますと、一番上、介護老人福祉施設、いわゆる特養です。富里市が 2,480 円。ほかの市と比べれば、特養の一人当たりの給付費は低い金額になります。

上から 3 個目、介護老人保健施設、いわゆる老健です。こちらは富里市 3,134 円。これは逆にほかの市に比べると、高い水準になっていることが見受けられます。

在宅サービスに移りまして、訪問介護です。富里市 669 円。ほかの成田、八街、山武に比べれば、低い水準になります。

中段、地域密着型通所介護、いわゆるデイサービスになります。富里市 718 円。ほかの市と比べて、若干低い水準です。

下から 3 個目、小規模多機能型居宅介護、富里市 197 円。ほかと比べると、低い水準です。サルビアホームの小規模多機能型が 1 か所できたばかり、2 年目というところがございます。まだまだ業者数が少ないというところも、数字として表れていることになります。

以上、抜粋して、富里市の取り巻く状況を申し伝えました。

ニーズ調査と取り巻く状況を含めて、報告を終わります。

以上です。

(宮川会長) ありがとうございます。

それでは、議題「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査等の結果及び本市を取り巻く現状について」の説明でございますが、御異議や御質問がございましたら、お願いします。池原さん、お願いします。

(池原委員) 急激に高齢化が進んでいる富里市なのですけれども、保険の給付が少ないというのは、とみさと健康ちょきん体操などがうまくいっているということなのでしょう。

(宮川会長) 事務局、どうぞ。

(高齢者福祉課長) 今の御質問ですが、冒頭申し上げました認定率の低さというところ

が影響していると思います。高齢者は増えているのですが、幸い介護保険を使われる方がそれほどいないという現状がございますので、そういったところで給付の額が抑えられているところになります。ただ、将来的にはこのままではいけないと思いますので、この状況が続けばいいのですが、できるだけ介護予防に力を入れていきたいと思います。

以上でございます。

(宮川会長) ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

ほかにございますか。土屋さん、お願いします。

(土屋(亮)委員) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の中で、南部地域と北部地域に差があるように感じるのですけれども、ここから見えてくる地域性みたいなものは、ざっくり何かありますか。

(宮川会長) お願いします。

(堀内(株) ぎょうせい) 私のほうから簡単に回答します。

差がある、ないというのは、10ポイント以上の差があるところという感じで、一応まとめてはあるのですけれども、今回、お出しはしていないのですが、地域性でいいますと、明確に出てくるのは、例えば60ページを御覧いただければと思うのです。

これは地域の通いの場についてという設問のところ、地域の通いの場はどのようなものなら参加したいと思いますかということ、でいいますと、移動手段(送迎がある)というところを見ていただきたいのですけれども、全体平均で26.8%なのですが、北部、中部、南部で見ますと、上から19.4、27.0、33.5、特に北部と南部で比べると、大きな差が出てきます。これは恐らく公共交通機関のあり方などを示していると思うのです。

似たような感じで、例えば67ページを見ていただきたいのですけれども、現在、どのような手段で買い物や病院に行きますかというようなことでいいますと、徒歩のところを見ますと、全体でいうと19.2%なのですが、北部で32.1%、南部ですと12.8%という形で、結構少ない比率になっていることから、市内の北と南での交通手段の使いやすさとか、アクセスの良さで、地域性があるということです。皆さん、分かれていると思いますが、調査結果からもそれが一応言えるということです。

先ほどちらっと触れただけなのですが、今回、これもたまたまそうなっただけかもしれないのですが、先ほどのリスクのところ、でいいますと、1か所だけ大きめの差が出ていたのは、93ページのそしゃく機能のリスク判定のところなのですけれども、ここだけ南部のほうやや高めには出ています。

ただ、これが何を原因にするのかというのは、すぐには分からないのですけれども、一応これを継続的に見ていきながら、もし何らかの地域性があるって、そうなっているのであれば、そういったことを考えていかなければいけないとか、一応こういうデータを頭に入れながら、今後、様子を見ていただければと思います。

あとは、市のほうで必ずしもそういう目的で、地域性を見るためにということではなかったと思うのですけれども、例えば

所得とか、使えるお金などを見ますと、北部のほうが余裕はあって、南部のほうがあまり余裕はないみたいなデータは見てとれたりしています。明確な差が見てとれるのは、そんなようなポイントだと思います。

(宮川会長) どうぞ。

(我妻委員) 一応私は医者なので、108 ページのところの認知症が結構違うのです。住みやすさというので関係があるのかもしれないけれども、北部が 35.2 で、南部が 20.4 です。これは結構違うと思いました。追加です。

(宮川会長) ありがとうございました。

ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、ないようですので、これで質疑を終わりにします。

以上をもちまして、本日の議題は終了いたしました。

委員の皆様には、御協力をいただきまして、ありがとうございます。

それでは、事務局、進行をお願いいたします。

(押切) 宮川会長、ありがとうございました。

5. 報告事項

(1) 介護保険事業の現状報告について【資料 4】

(押切) 続きまして、「5. 報告事項」でございます。

「(1) 介護保険事業の現状報告について」、御報告をお願いします。

(秋葉) 24 ページから 28 ページになります。

24 ページ「①富里市介護保険被保険者の状況」報告についてでございます。

富里市介護保険被保険者の状況ということで、総人口、令和 2 年 3 月末でございまして、5 万 163 名。

65 歳以上の方が 1 万 3845 人。

高齢化率につきましては、27.6%でございました。

要介護認定関係とその下の認定状況につきましては、1 ページ目で説明させていただきましたので、割愛させていただきます。

一番下の枠に行きます。施設等入所者につきましては、介護老人福祉施設 127 名。

入所待機者数については、令和 2 年 1 月 1 日現在で 65 名。

介護老人保健施設につきましては、161 名。

療養型病床群等につきましては、1 名。

グループホーム 20 名、介護医療院につきましては、8 名の入所がありました。

居宅介護支援のところでございますが、居宅介護サービス計画が 626 件でございました。

介護予防支援につきましては、予防サービス計画が 114 件でございました。

25 ページをお願いいたします。「②令和元年度介護保険料賦課徴収状況（令和 2 年 5 月末現在）」でございます。

保険料の段階別内訳としまして、記載してございます。富里市においては、第 1 段階、第 4 段階、第 6 段階、第 7 段階の方が多い状況でございます。

第 1 段階につきましては、2,114 名、第 4 段階の方が 2,295 名、第 6 段階が 2,491 名、第 7 段階が 2,067 名です。第 1 段階から第 10 段階までで、合計 1 万 4369 名でございました。

なお、第 1 段階から第 3 段階の方につきましては、消費税増税に伴う軽減措置が発動しておりまして、保険料が前年と比べて多少安くなっております。

徴収方法別保険者数についてでございます。

特別徴収対象者は1万2215名。割合としては85.01%です。

普通徴収対象者が1,938名。13.49%。

併用徴収対象者ということで、特別徴収と普通徴収が交じっている方でございまして、216名。1.5%でございました。

合計としては、1万4369名でございます。

徴収方法別賦課額でございます。

特別徴収対象者としましては、7億4402万6300円。89.02%。

普通徴収対象者につきましては、9173万5200円。

合計としまして、8億3576万1500円となっております。

徴収方法別収納率でございます。現年分としまして97.97%、合計としましては94.86%でございました。

続いて、26ページを御説明いたします。令和元年度介護給付費執行状況でございます。予算額、予算割合、執行額、執行率、予算残高を掲載してございます。

主立ったものとしまして、一番上です。居宅介護サービス給付費としまして、予算額7億6889万9000円に対しまして、執行額は7億5939万7681円、執行率98.76%でございました。

4つ下がりまして、施設介護サービス給付費9億3000万円に対しまして、執行額は9億2829万6437円でございます。執行率99.82%でございます。

また4つ下がりまして、居宅介護サービス計画給付費ということで、1億508万4000円に対しまして、執行額は同額で100%でございます。

高額介護サービス費としまして、5112万円の予算に対しまして、5111万9754円でございます。

合計としまして、予算額22億1487万7000円に対しまして、執行額は21億9878万9640円でございます。執行率が99.27%であります。

27ページ、28ページにつきましては、今の26ページの関係なのですが、28ページはグラフ化したものですので、御覧いただければと思います。

以上でございます。

(押切) ありがとうございます。

ただいまの介護事業の現状報告につきまして、御質問等はございますでしょうか。どうぞ。

(宮川会長) 12ページの介護高齢化率なのですが、令和2年は29.5%と先ほど言っていたのですが、今のあれでは27.6%ということで、どちらが本当なのですか。

(押切) 27.6%は、令和2年3月31日時点での実績の数値になりまして、令和2年、令和7年、令和12年は、ぎょうせいさん、予想していた数字でよろしいですか。

(堀内(株)ぎょうせい) 12ページは推計値であるということと、あとは、国勢調査の人口ベースでもやっているの、ほかのものとちょっと違うということです。

(宮川会長) こちらは予想、こちらは実績ということですね。

(押切) 先ほどの27.6は実績です。

(宮川会長) ややこしいですね。先ほどから疑問でした。すみません。

(押切) ほかにございますでしょうか。

それでは、各資料については、御自宅等で確認していただければと思います。

(2) 地域密着型サービス事業所の指定状況について【資料5】

(押切) 続きまして「5. 報告事項」の「(2) 地域密着型サービス事業所の指定状況に

ついて」事務局からよろしくお願いします。

(事務局) 資料 5, 29 ページになります。地域密着型サービス事業所の指定状況について。

指定事業者数ですが、認知症対応型共同生活介護の施設が 3 件ということで、市内 2 件、市外 1 件でございます。

認知症対応型通所介護施設は、市内に 1 件でございます。

小規模多機能型居宅介護の施設は、市内に 1 件でございます。

地域密着型通所介護の事業所は 26 件、内訳は市内 5 件、市外 19 件、県内 2 件でございます。

施設ごとの指定期間については、29 ページから 31 ページまで載せてございます。

下の表の 1 段目、グループホームおたがいさまにつきましては、定員 12 名に対しまして、富里市の方の利用が 10 名です。指定期間としては、平成 28 年 12 月 1 日から令和 4 年 11 月 30 日です。

こころあいホームにつきましては、定員 9 名、うち富里市の利用者は 9 名です。指定期間は、平成 29 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日となっております。

また、事業所が多数ございますので、後ほど御覧いただければと思います。

説明は以上でございます。

(押切) 地域密着型サービスは、基本的に市内での利用者様、富里市にある事業所様は富里市優先で利用できる。市外にある事業所については、その市町村と協議した上で、利用の打診がもらえれば、市外の地域密着型の利用ができるという仕組みになっております。

何ページかにわたって、各種名称、定員に対する富里市の利用人数等を記載してございます。

資料 5 について、御質問等があれば、よろしくお願いいたします。特段よろしいでしょうか。

(3) 富里市地域包括支援センター等運営協議会からの報告【資料 6・資料 7】

(押切) そうしましたら「5. 報告事項」の「(3) 富里市地域包括支援センター等運営協議会からの報告」ということで、丹委員、よろしくお願いいたします。

(丹委員) 富里市地区保健推進員協議会の丹と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、先ほど改正された分科会のうち、地域包括支援センター等運営協議会の内容について、報告させていただきます。

資料 6, 32 ページを御覧ください。

(押切) 32 ページをお願いします。

(丹委員) 地域包括支援センターの状況としては、令和 2 年 3 月末日の相談実績、活動実績となります。

総合相談についてですが、全体としては 1 万 409 件の相談件数でございました。前年度と比較しますと、3,687 件の増加となっており、要因としては、7 月下旬から 8 月上旬にかけ、熱中症予防の訪問、また、9 月の台風 19 号による長時間の停電での対応として、市と三包括で例年より多く訪問を実施したことによるものです。

37 ページから 39 ページまで、委託型地域包括支援センターの活動実績でございます。北部、中部、南部の各包括において、地域ケア会議等の開催や自主活動としての各種事業活動を実施しております。

40 ページ、生活支援体制整備事業でございますが、圏域ごとに生活支援コー

ディネーターを配置し、地域に不足しているサービスの創出や担い手の養成、関係者との情報共有や連携体制づくりを進めております。

41 ページ，平成 30 年度から事業開始となりました，認知症初期集中支援チームの相談件数等になっております。

令和元年度末には 414 件，チーム員会議は 16 回，支援開始ケース数は 12 件となりました。

42 ページ，43 ページは，一般介護予防事業です。

44 ページは，介護給付等費用適正化事業です。

45 ページは，医療・介護連携推進事業です。

46 ページは，認知症対策事業の実施状況になります。

各種の事業ですが，昨年は秋の台風や新型コロナウイルスの影響により，一部で事業縮小となりました。

引き続きまして，地域包括支援センター等の評価について，説明させていただきます。

富里市は，高齢者の方々が住み慣れた地域で，その人らしい生活が継続できるよう，様々な方面から高齢者の暮らしを支える地域づくりを推進しているところです。

次に資料 7，47 ページを御覧ください。市内 3 か所にあります，委託型地域包括支援センター事業評価の総括表になります。

各地域包括支援センターの実績評価表につきましては，48 ページから 53 ページとなります。

令和元年度からの試みとして，地域包括支援センター職員は，評価基準を基に業務の実施状況等の振り返り，自己評価を行いました。

自己評価と年間事業，実績報告書に基づき，担当者にヒアリングを実施した後，実績評価表の 9 項目に沿って 5 段階で採点，総合的な評価を点数化，成果や課題の確認を行いました。

評価点の合計割合ですが，北部包括支援センターは 85.1%，中部包括支援センターは 84.6%，南部包括支援センターは 84.6%でした。

54 ページを御覧ください。生活支援体制整備事業委託評価の総括表になります。

各包括支援センターの第 2 層生活支援コーディネーター実績評価表につきましては，55 ページから 60 ページとなります。こちらの実績評価は 6 項目になっていますが，具体的な評価方法，評価者は先ほどの包括支援センター事業と同様です。

評価点の合計割合ですが，北部包括支援センターは 90%，中部包括支援センターは 91.5%，南部包括支援センターは 91.5%でした。

議題（2）に関する説明は，以上です。

（押切） ありがとうございました。

ただいまの地域包括支援センター等運営協議会からの報告について，委員の皆様，御質問等がございましたら，よろしく願いいたします。何かお気づきの点，御不明な点等々はございますでしょうか。土屋委員，どうぞ。

（土屋（和）委員） 先ほどの調査報告書の中にもあったのですが，自宅で介護をする上で一番心配なものとして，認知症というものが結果で出ていて，認知症初期集中支援チームの実績の報告も 41 ページにあるのですが，まだまだ認知症のことを知らないというか，認知症の相談窓口を知っていますかという項目もどこかに入っていて，知らないという方がす

ごく多かったと思うのですが、その辺りはどうお考えでしょうか。

(高齢者福祉課長) 調査報告書の中に結構課題が詰まっています。今、初期集中支援チームのお話があったけれども、各包括支援センターを知らないという方が結構いらっしゃるのです。この調査結果を私も見てびっくりしたのですが、意外と知られていないので、そういった周知が必要だと思います。要は使っている方は分かっているのですが、そうではない元気な方、特に今のところ必要がない方にとっては、あまり身近ではないところがありますので、そういった方がどういったところに相談したらいいかということも含めて、これからいろいろな手を使って周知していきたいと考えております。

以上でございます。

(押切) よろしいでしょうか。

(土屋(和)委員) はい。

(押切) ほかにございませんでしょうか。

ここの分科会のページは、かなりボリュームがございますので、御自宅で確認していただきまして、後日、不明な点がございましたら、事務局に御質問いただければと思います。

(4) 富里市指定居宅介護事業所等指導・監査連絡協議会からの報告【資料8】

(押切) 続きまして「5. 報告事項」の「(4) 富里市指定居宅介護事業所等指導・監査連絡協議会からの報告」ということで、南部の土屋委員、よろしくお願いいたします。

(土屋(亮)委員) 土屋です。よろしくお願いいたします。

分科会2の富里市指定居宅介護支援事業所等指導・監査連絡協議会で協議された内容を御報告させていただきます。

資料8の61ページからになります。

一つ目は、集団指導の実施要件についてであります。

地域密着型介護事業所向けの集団指導及び指定居宅介護支援事業所向けの集団指導は、令和3年3月に開催予定と事務局からの説明がありました。

テーマは、適正な事業運営の実施に関する事項や令和3年度介護保険制度改正に関する説明が予定されているとのことであります。また、新型コロナウイルス感染防止に関する対応、災害対応というところでの集団指導もあるとのことでございました。

地域密着型の事業所と居宅介護支援事業所は、日をずらして行うとのことでございました。

制度改正の中で一つありましたのは、令和3年3月までに居宅介護支援事業所の主任ケアマネを取らなければいけませんというものが、令和9年3月末まで延長されたとのことであります。

次に62ページ、63ページを御覧ください。今年度の実地指導の一覧になります。

例年であれば、2事業所ずつ実地指導を予定しているところですが、今年度は1事業所ずつになりました。介護給付の適正化や書類の管理、作成を確認し、事業所の基準体制が正しくなされているかを厳密にチェックしているとのことであります。

去年度の実地指導の結果についても、一部報告がありまして、居宅介護支援事業所では、モニタリングが適切に行われていないとの理由で減算になった事業所もあったとの報告がありました。県から市に指定権限が下ろされてきたことで、基準が緩くならないようにということも注意して行っているということでありました。適切な事業運営を行えるために指導をしていくということでもあります。

下の富里市地域密着型の事業所の実地指導でも、相談スペース等がきちんと確保されていなかったり、運営規定等が掲示されていなかったりという部分で指導をしてきたという報告もありました。

以上です。

(押切) 土屋委員、ありがとうございました。

補足ですが、資料8の居宅介護支援事業所及び地域密着型の今年度の実地の予定は、あくまでも案になりまして、場合によっては、事業所の変更も想定されますので、こちらの資料については、取扱い注意で、情報は漏らさないような形にいただければと思いますので、よろしくお願いします。

分科会2の部分について、御質問等がございましたら、よろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。

(5) 富里市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画策定スケジュールについて

【資料9】

(押切) そうしましたら、最後「5. 報告事項」の「(5) 富里市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画策定スケジュールについて」ということで、64ページをお開き願います。

第8期の策定につきましては、令和2年度が最終年度でございます。

令和2年度のスケジュールの中で、中段より下、各種サービスの目標値等の推計と指標設定になります。先ほども少し申し上げましたが、8月のお盆前後ぐらいいから秋にかけてまして、サービス給付費、サービス量、各種施策の方向性、保険料の算定を含めて試算をしていく予定になっております。

続いて、6番目の計画策定というところで、骨子案につきましては、今、国の審議会等々の動きもございまして、お盆前後ぐらいまでは国の方針等が示されていくというところで、それに連動して骨子は完成を図りたいと思います。

それを受けて、素案につきましては、10月を目途に策定等をしていきながら、パブリックコメントを12月ぐらいに実施、若干の修正等々を踏まえながら、3月中には計画の完成ということで、予定をしております。

引き続き、委員の皆様には、運営協議会等々で随時お諮りをしながら、完成に向けて執り行っていきたいと思っておりますので、御協力のほど、よろしくお願いいたします。

こちらのスケジュール等については、御質問等がございましたら、よろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。

全ての事項について、御不明な点がございましたら、事務局まで御質問等をよろしくお願いいたします。

6. その他

(押切) 引き続き「6. その他」についても、聞きたい点、御質問等がございましたら、よろしくお願いいたします。何か他の事項でありますでしょうか。中川委員、どうぞ。

(中川委員) 今回のアンケートの集計ですとか、資料1なのですけれども、大変細かく調査されていて、今後の活動の分析には大分役に立つと思っています。これから協議体等こういった資料、データを使わせていただくことは可能なのでしょうか。

(押切) アンケート結果報告につきましては、いずれ第8期の計画等が策定された段階では、セットでホームページ等にも掲載はしていく予定ですし、こちらの報告書については、これから公表するものになると思いますので、有効に活用していただきたいということと、基本的に運営協議会の事項についても、提示できるものはホームページで事後ということで報告はしていきたいと思いますが、ただ、一部、先ほどの実地指導とか、集団指導とか、取扱い注意等の資料もございますので、協議会等で使う場合には、逐一、どの資料を使うかということは、事前に連絡いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

(中川委員) 分かりました。ありがとうございます。

(押切) ほかによろしいでしょうか。

それでは、時間もたっておりますので、以上をもちまして「令和2年度第1回富里市介護保険運営協議会」を終了させていただきたいと思います。長時間にわたり、ありがとうございました。